

平成27年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補・県単

事業名	林道事業 [森林管理道開設事業(国補)]		事業箇所	北杜市須玉町		地区名	林道金ヶ岳線		事業主体	山梨県	
(1)事業着手年度	H14年度	(2)事業期間	H14年度~H22年度		(3)完了後経過年数	5年		(4)総事業費	1,350百万円		
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等					
<p>本路線は北杜市須玉町の東部に位置し、金ヶ岳北面の森林を適切に整備・管理することを目的とした森林管理道である。利用区域651ha内の人工林率は約53%で、保育を要する幼齢林と間伐を要する林齢30年生以上の人工林が大半を占めているが、その大半が間伐等の森林整備が立ち後れていた状況であるため、本路線が整備されることにより、効果的な森林整備が行われ、健全な森林環境の形成と地域林業の振興に寄与されることが期待されていた。</p> <p>また、明野町浅尾地区にある山梨県立フラワーセンター(ハイジの村)等の観光施設から金ヶ岳、茅ヶ岳の登山の名所を結ぶ観光ルートも形成され、多くの観光客の利便性の向上も見込まれていた。</p>						<p>省 略</p>					
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果											
<p>(事前評価未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 森林整備の効率化</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防火帯の確保</li> <li>・林業生産力の向上</li> <li>・リサイクルの推進(間伐材や再生資材の活用)</li> </ul>											
(7)整備内容(目標達成の方法)											
森林管理道の開設、実施延長9,207m、幅員4.0m(未舗装)											

2. 評価シート (1)

<p>(1)事業貢献度 <span style="float:right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 良 <input type="radio"/> 不良 <input type="radio"/> 〉</span></p> <p>(理由) 林道が開設され森林整備を計画的・効率的に行う条件が整い、県有林管理計画に基づいた主伐、間伐などの施業が実施され、健全な森林が形成されている。 また、間伐材の使用により資源が有効利用されている。</p> <p>①主要目標 森林整備の効率化</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:35%;">着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐採対象人工林の割合</td> <td>設定せず</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>利用区域内の人工林率</td> <td>設定せず</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td>設定せず</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 人工林のうち徒歩30分圏内の区域割合が基準値70%を達成しており、整備対象森林に容易に到達できるようになり、間伐を主体とした森林整備が効率的・効果的に実施されている。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯の確保</td> <td>防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業技術ハンドブック)防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>林業生産力の向上</td> <td>林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進(再生資材の活用等)</td> <td>以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 金ヶ岳、茅ヶ岳を周回する道路として登山者等に広く利用されている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	伐採対象人工林の割合	設定せず	35%	利用区域内の人工林率	設定せず	53%	徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	73%	項 目	内 容	防火帯の確保	防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業技術ハンドブック)防火帯を確保できた。	林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。	リサイクルの推進(再生資材の活用等)	以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 <span style="float:right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 〉</span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:35%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,540百万円</td> <td>1,350百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H14~H22</td> <td>H14~H22</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,968百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,394百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.22</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析) 最も経済的な線形を選択したことや、路肩縮減による構造物の縮小、再生砕石等リサイクル資材を活用したことにより、事業費を約1割縮小できた。</p> <p>(3)事業実施による環境の変化 <span style="float:right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 〉</span></p> <p>①自然環境への影響 間伐等森林整備を実施することにより、下草等植生の繁茂による保水能力の上昇や降雨による表土の流出が少なくなるなど公益的機能が向上し、地球温暖化防止に貢献している。 また、全体計画策定時における文献及び現地調査の結果、希少動植物の確認はされず、事業実施中においても確認されなかったことから生態系の影響はなかった。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし。</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況(措置を講じた場合) なし。</p> <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <span style="float:right;">〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 〉</span></p> <p>①社会経済状況の変化 なし。</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし。</p> <p>③事業環境等の変化 なし。</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,540百万円	1,350百万円	工 期	H14~H22	H14~H22	経済効率性	費用	1,968百万円	便益	2,394百万円	B/C	1.22
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																																			
伐採対象人工林の割合	設定せず	35%																																			
利用区域内の人工林率	設定せず	53%																																			
徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	73%																																			
項 目	内 容																																				
防火帯の確保	防火帯(防火線)として必要な幅である概ね10m以上を満たす(林業技術ハンドブック)防火帯を確保できた。																																				
林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。																																				
リサイクルの推進(再生資材の活用等)	以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。																																				
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																			
総事業費	1,540百万円	1,350百万円																																			
工 期	H14~H22	H14~H22																																			
経済効率性	費用	1,968百万円																																			
	便益	2,394百万円																																			
	B/C	1.22																																			

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>
<p>(理由)                  本地域は林道が開通し森林整備を計画的に実施できる体制が整い、平成14年度以降間伐などの森林整備を約270ha、主伐による木材搬出を1,650m<sup>3</sup>実施しているが、今後は林分の成長に伴う搬出間伐も実施され、木材の循環利用が図られる見込みである。                  また、今後の森林整備計画についても、県有林管理計画や市町村森林整備計画に基づき確実に実施される見込みであるため、事後評価を再度実施する必要性はないと考えられる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時期：        年度</li> <li>・ 方法：</li> </ul>	<p>(理由)                  ・ なし</p> <p>(具体的反映策)                  ・ なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>
<p>(理由)                  ・ なし</p> <p>(具体的反映策)                  ・ なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p>	<p>(理由)                  ・ なし</p> <p>(具体的反映策)                  ・ なし</p>
	<p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p> <p>・ なし</p>

添付資料シート（2）



① 完成区間の間伐材利用状況（木製土留工）



② 沿線の木材搬出状況



③ 沿線の森林整備実施状況（間伐）



④ 林道沿線のカラマツを伐採し、カラマツを植栽



⑤ 登山者の状況（茅ヶ岳）